

行政評価シート（事務事業評価）			評価年度	4年度
事業名	障害者社会参加促進事業		担当課	福祉課
事業内容（簡潔に）		障がい者にスポーツやレクリエーション等の交流の場を提供する。		

1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	思いやりあふれる福祉のまちづくり		
	政策	地域の絆で支え合い、助け合う福祉のまちづくり		
	施策	障がい者福祉の充実		
関連する個別計画等		根拠条例等	障害者総合支援法	

2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	在宅障がい者の社会参加の機会等を提供することにより、障がい者の自立と社会参加の促進を図る。			
事業の手段	<ul style="list-style-type: none"><li>・在宅障がい者交流運動会の開催</li><li>・手話奉仕員養成講習会の開催</li><li>・在宅障がい児（者）母子グループ療育指導事業（製作活動、料理教室、ダンス等）</li><li>・声の広報の発行</li><li>・障がい当事者や家族会等による自発的活動の助成</li><li>・重度身体障がい者への自動車改造費の助成</li></ul>			
事業の対象	市内に住所のある障がい者及びその家族 市民			

3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		元年度	2年度	3年度
A 事業費 (千円)		760	376	666
財源内訳	国・県支出金	374	78	309
	その他(使用料・借入金ほか)			
	一般財源	386	298	357
B 担当職員数(職員E) (人)		0.15	0.15	0.15
C 人件費(平均人件費×E) (千円)		1,007	986	987
D 総事業費(A+C) (千円)		1,767	1362	1653
主な事業費用の説明	手話奉仕員養成講習会講師謝礼、事業実施委託料			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した元年度(6,715千円)、2年度(6,575千円)、3年度(6,582千円)を使用しています。

4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

指標名		指標の算出方法	実績値		
			元年度	2年度	3年度
活動指標	1 実施回数(回)	障がい者交流運動会 母子グループ療育指導	1 8	0 0	0 4
	2 発行回数(回)	声の広報	16	16	16
	3 受講者数(人)	手話講習会	18	0	8
妥当性		<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない			
上記活動指標と妥当性の説明		1	実施回数は少ないが、定期的な開催は障がい者の社会参加のために必要である。		
		2	広報誌と議会だよりの発行に伴っての発行だが、社会参加のための情報提供としては妥当である。		
		3	聴覚や言語機能に障がいを持つ方の社会生活を支えるため、手話奉仕員の養成は必要な事業である。また令和3年度はコロナの影響により定員を10名に制限した。		

## 5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名		指標の算出方法	実績値		
				元年度	2 年度	3 年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	参加者数(人)	障がい者交流運動会 母子グループ療育指導	84 8	0 0	0 11
	2	利用者数(人)	声の広報	14	13	13
	3	認定者数(人)	手話奉仕員登録者	11	0	6
成 果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C 上がっていない				
上記指標の妥当性と成果の内容説明		1	近年参加人数に減少が見られ、2～3 年度はコロナの影響により中止したが、事業の実施により在宅障がい者が外に出て社会とつながる機会を提供することは、社会参加を促すために必要な事業である。			
		2	近年利用者数が減少しているが、声の広報は、視覚障がい者にとっては市の情報を得るための手段、市にとっては情報保障のための手段として大変重要な事業である。			
		3	2 年度はコロナの影響により中止、3 年度の登録者も減少しているが、手話講習会を終了することで登録できる手話奉仕員は、身近な通訳者として聴覚障がい者の社会参加にとって重要な役割を果たすため、継続して実施することにより着実に奉仕員数を増やしていくことが必要である。			

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input checked="" type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

## 6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開		<div><input type="checkbox"/> 拡大（コストを集中的に投入する）<input checked="" type="checkbox"/> 一部改善（事務的な改善を実施する）</div> <div><input type="checkbox"/> 全部改善（内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要）<input type="checkbox"/> 縮小（規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する）</div> <div><input type="checkbox"/> 廃止（廃止の検討が必要）</div>					
事務事業の改善案	改善の概要・方向性（いつまでに、どういう形で具体化するのか）						
	令和4年度の改善計画（今後の事業展開説明） <div>・障がい者交流運動会については、引き続き会場である運動場の変更や洋式仮設トイレの設置など、参加者に配慮した環境を用意し、利用者の増加につなげ、交流の機会を確保していく。 また、施設関係者に事前聞き取りを行うなど、参加しやすい日程等を検討する。 なお、競技種目の見直しを行うとともに、教育課とも連携を図り、パラスポーツの導入等検討し、参加者の増加を図る。 ・手話奉仕員養成講習会は、受講者が減少しており、またコロナの影響も鑑み、講師とともに定員や講義時間及びカリキュラムを見直すことで参加しやすい講座となるよう検討し、手話コミュニケーションが行える市民の増加を図る。</div>						
改善の経過	令和2年度	手話講習会の定員を20名から30名に増やし、身近な場所で手話ができる方を増やすことで聴覚や言語機能に障がいを持つ方の社会参加できる環境づくりを図ったが、コロナの影響により中止とした。					
	令和3年度	声の広報をカセットテープのみでなくCDでの提供を行い、利用者の利便性の向上を図った。					
	令和4年度	コロナの影響により、手話講習会の定員を10名とした。					
	令和4年度	コロナの影響により、手話講習会の定員を15名とした。					
直近の評価結果	内部評価	2年度	<div><input type="checkbox"/> 拡大<input type="checkbox"/> 継続<input checked="" type="checkbox"/> 一部改善<input type="checkbox"/> 全部改善<input type="checkbox"/> 縮小<input type="checkbox"/> 廃止</div>				
	評価時の改善案	障がい者交流運動会については、会場である運動場の変更や洋式仮設トイレの設置など、参加者に配慮した環境を用意し、利用者の増加につなげ、交流の機会を確保していく。 手話講習会は、受講者が減少しており、またコロナの影響も鑑み、講師とともに定員や講義時間及びカリキュラムを見直すことで参加しやすい講座となるよう検討し、手話コミュニケーションが行える市民の増加を図る。					
	外部評価	2年度	<div><input type="checkbox"/> 拡大<input type="checkbox"/> 継続<input checked="" type="checkbox"/> 一部改善<input type="checkbox"/> 全部改善<input type="checkbox"/> 縮小<input type="checkbox"/> 廃止</div>				
	評価時の対応	<div>・手話講習会の定員を20名から30名とする。 講習会終了後に認定される手話奉仕員を増やすことで、身近な場所で手話ができる方、手話通訳者等のより上位の資格を目指す方を増やすことにつなげ、聴覚障害者が気軽に社会参加できる環境づくりを図る。</div> <div>・声の広報は現在カセットテープで提供しているが、CDでの提供もできるよう検討し、利用者の利便性の向上を図る。</div>					
課長所見		障がい者の社会参加の機会づくりのため必要。今後も継続実施する					